



学校だより

7月号
横浜市立桜台小学校
令和3年6月30日発行

「人・もの・こと」との出あいが生むもの
～横浜FCとのタイアップから～

副校長 早坂 考史

梅雨明けまで、蒸し暑い日が続く時季となりました。

神奈川県へ発出されていた「まん延防止等重点措置」が7月11日まで延長され、感染症の脅威がいまだ色濃く残る中、引き続き子どもたちの安全を守るため、感染症予防対策に努めております。例年なら気温の高い日には、水泳学習に興じる子どもたちの声が響き渡る季節なのですが、今年度も昨年度と同様、残念ながら水泳学習及び夏季水泳教室や区水泳大会を中止しています。また、特設器楽クラブの活動も現時点まで開始できていない状況です。その他にも様々な制限の元、感染症予防対策に取り組んでいます。

そんな中できないことばかりではなく、できることを考え工夫し、実践しています。本校では、昨年度6年生が横浜市教育委員会の指定を受け、キャリア教育の一環として「はまっ子未来カンパニープロジェクト」に参加しました。そして地元のプロサッカーチーム「横浜FC」とタイアップ（協力・連携）して、例えばJR保土ケ谷駅や市営バスの中に掲示された公共マナー啓発のポスターを制作したり、実際のプロスポーツの試合運営に携わったりと様々な活動を行いました。今年度も、その繋がりを生かして横浜FCとのコラボ企画に取り組んでいます。

まずは、児童運営委員会が中心となって朝の挨拶運動を始めました。

記念すべき今年度の1回目（6月10日）には、横浜FCの応援マスコット「フリ丸」がゲストとして登場し、朝の挨拶を大いに盛り上げてくれました。学校保健委員会（6月18日）では、体力増進



を目的とした取り組みの中で、横浜FCスタッフからのビデオメッセージと正しいストレッチの仕方を放映し、子どもたちへの意欲付けへと結びつけました。また今後、横浜FCから保土ケ谷区の各小学校へ贈呈された「コロナ禍でもできる体力増進・食育啓発」のDVDを使って運動委員会や給食委員会が、全校児童へそれぞれ大切に発信し、実践していく予定です。

教育活動では、「人・もの・こと」との出あいが子どもたちの学びの意欲を高めていきます。特に桜台小学校では、このような「人との関わり方」を大切にしていきたいと考えています。これは、コロナ禍により人間関係が希薄になったと言われる社会全体の課題ともいえるのではないのでしょうか。いわゆるバーチャル上や名前や顔も分からないインターネット上の関わりではなく、地域性や地元の特色を生かした「顔が見える関係」により、相手意識を高めることができます。こうした活動は、「思いやり」「創造力」「自主性」「丁寧さ」あるいは私たち大人が思いつかないような様々な「可能性」を子どもたちへ植え付けます。人との出あいから生み出される成果に大いに期待しながら、今月も子どもたちの成長を支援してまいりたいと思います。